

令和2年度第1回鹿児島市水道事業及び公共下水道事業経営審議会

日時	令和2年7月17日（金） 10:03~11:52
場所	鹿児島市水道局 5階 大会議室
出席者	北村委員（会長）、上川路委員（副会長）、川畑委員、前田委員、倉元委員、藤田委員、塩満委員、満園委員、徳納委員、田村委員（10名）
市出席者	水道事業及び公共下水道事業管理者、総務部長、水道部長、下水道部長、総務課長、経営管理課長、経理課長、料金課長、給排水設備課長、水道整備課長、水道管路課長、配水管理課長、下水道建設課長、雨水整備室長、下水道管路課長、下水処理課長、経営管理課企画係長、企画係職員2名（19名）
会次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員紹介 3 当局出席者紹介 4 管理者あいさつ 5 会長互選 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 水道事業、公共下水道事業及び工業用水道事業の令和2年度予算について (2) 上下水道事業経営計画に掲げる実現方策の令和2年度実施計画について 7 その他 8 閉会

議題(1) 水道事業、公共下水道事業及び工業用水道事業の令和2年度予算について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	水道料金の減額が、2年度予算の収入支出に含まれていないというのはどういうことか。
事務局	2年度当初予算とは別に水道事業管理者の権限で減額措置を行った。これにより給水収益から10億円相当額が減る見込みである。
委員	雨水事業が建設局より移管されるタイミングの根拠はなにか。
事務局	平成27年の総務大臣の通知で、人口3万人以上の団体は平成31年度までに公営企業会計を適用するように通知があった。
委員	雨水事業が建設局より移管されるメリットはなにか。また、4月以降、コロナウイルス対策として手洗いが増えたと思うが、給水量は増えたのか。
事務局	雨水事業移管のメリットは、資産管理に企業会計が適用され、より厳格な資産管理となり、今後適宜更新ができるように計画していく。また、国の補助金は、企業会計を適用している団体に交付するとの通知があり、交付金を受け続けるメリットがある。4月以降の水量の違いたが、4月から6月の上水道の水量は、全体で対前年比1.5%位増えている。一般家庭が使用する生活用水は4.4%増であるが、都市活動用水は△11%の減でかなり下がっている。

議題 (2) 上下水道事業経営計画に掲げる実現方策の令和2年度実施計画について

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	効率的経営手法の検討について、下水道の「包括的民間委託について検討を行う」とあるが、具体的には何かあるのか。
事務局	鹿児島市でもし導入するとすれば、どのような委託が可能であるかを含めて可能性を調査するものであり、直ちに民間に全部委託するというものではない。
委員	基本構想等の見直しについて、業務委託をすることで予算を計上されているが、先ほど質問があった、包括的民間委託の検討と連動して委託先などは検討していると考えていいのか。
事務局	基本構想は、社会情勢の変化、人口の減少等を踏まえ、今後20年間を見据えた新たな構想を策定する。処理場の包括委託との関係については、基本構想に一部としては影響を与える状況になると思うが、基本構想では、処理場の包括委託だけではなく、下水道事業の行く末をどのような形でやっていくか検討していくことになっていくかと思う。
委員	基本構想の中で下水道事業をどうしていくか、民間への委託という選択肢が増えているとするならば、そういったところも含めトータルで議論していかないと、一部だけを切り離してというのはどうなのかと疑問がある。
事務局	大きな基本構想と、その中の一部の処理場の包括委託の検討となるが、連動しており、大きな構想の中から外れるようなことはない。
委員	耐用年数について、配水管40年、汚水管50年と説明があったが、水道管は地中に埋まっており、地区ごとに40年経過したので点検をしているのか、それとも異常が発生したときに点検をしているのか。 また、管の埋まっている土壌の質によっても若干違ってくる気もするが、点検の方法などを聞かせて欲しい。
事務局	水道管については、漏水調査というものを毎年行っており、耐用年数を経過した管路については約19%あるが、すぐに全てが問題をおこすわけではない。優先度をつけ、優先度の高いものから更新を行っている。具体的には、平成24年度から10か年計画で171kmを対象とし、計画的に更新を行っているところである。 また、土壌と水道管の腐食の関係も調査している。

その他 次期経営計画スケジュール案、新型コロナウイルスに係る水道局の取り組みについて

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	東京都では、下水を検査してコロナの影響度を調査する取り組みをしているというが、鹿児島市ではどうなのか。 もう一点は、水道局に限らず行政のホームページをみるといつもと変わらないホームページになっていて、関係各課の対応について記載がない。説明がないのが恐怖感を増長させるので、水道局でも、「水道水は安全である」、「下水道はしっかり処理しているから安全である」と広報してもらえたらいいと思う。
事務局	第1点目の下水の検査でコロナの蔓延度がわかるという検査は、まだ試験が、どこでも活用できるのかどうかまだ情報を得ていないところであり、コロナの窓口としては、市の保健所などが中心になって行っているのだから、そこからの要請があれば、検査に協力していきたいと思っている。ただ、今の段階では、そのような要請はないところである。 ホームページの掲載については、貴重なご意見であり、既存のホームページではなく、トピック的に掲載したほうがよいというご意見であるので、検討させていただきたい。